

第48期（2022年4月期）第1四半期 決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

業績ハイライト	1
セグメント別売上	2
セグメント別営業利益	3
売上構成	4
財務ハイライト	5
第2四半期以降の取り組み	6
業績予想について	7
配当について	8

業績ハイライト

第1四半期においては、広告宣伝や研究開発に積極的な投資を行いながら、通販・店販・直販・海外の各販路それぞれの伸長と最適化を図ってまいりました。

国内外のECを中心とした通信販売が引き続き好調だったことや、家電量販店を中心とした店頭での販売も回復したことなどから、売上高は前年同四半期を上回りました。

一方、利益面では、第1四半期に投資予定であった広告宣伝等の費用の一部が第2四半期以降にずれ込んだことなどもあり、2021年6月11日に発表した業績予想に対し、予定していた進捗率を大きく上回って着地しました。

回次	第46期 第1四半期 2019年5月1日 ～ 2019年7月31日	第47期 第1四半期 2020年5月1日 ～ 2020年7月31日	第48期 第1四半期 2021年5月1日 ～ 2021年7月31日	【ご参考】 第47期 2020年5月1日 ～ 2021年4月30日
売上高（千円）	5,450,607	8,754,669	10,639,958	36,631,026
営業利益（千円）	750,924	1,666,370	2,929,018	6,116,800
営業利益率（%）	13.8	19.0	27.5	16.7
経常利益（千円）	649,602	1,591,403	2,955,572	6,104,957
親会社株主に帰属する当期純利益 （千円）	365,501	961,858	2,021,854	3,727,926
1株当たり当期純利益（円）	6.53	17.48	36.75	67.75

セグメント別売上

通販部門は、TV通販を中心に、堅調な売上となりました。

店販部門は、前年同四半期と同様に免税店を中心とした海外顧客向けの販売がほとんど稼働できなかったものの、家電量販店を中心とした国内顧客向けの販売が伸長し、売上を回復させました。

直販部門は、当社直販サイトやモールなどのECが好調を維持し、売上面では前年同四半期にはわずかに及ばなかったものの、広告効率の向上により利益面では増益となりました。

また、海外部門は、引き続き中国国内のECに勢いがあり、売上を更に伸ばしました。

回次	第46期 第1四半期 2019年5月1日 ～ 2019年7月31日	第47期 第1四半期 2020年5月1日 ～ 2020年7月31日	第48期 第1四半期 2021年5月1日 ～ 2021年7月31日	【ご参考】 第47期 2020年5月1日 ～ 2021年4月30日
通販部門（千円）	1,297,364	1,495,516	1,608,175	4,948,139
店販部門（千円）	1,931,080	1,451,274	2,466,786	7,605,477
直販部門（千円）	1,084,114	3,291,373	3,120,152	12,059,489
海外部門（千円）	919,387	2,385,769	3,148,223	10,997,975
その他（千円）	218,661	130,735	296,620	1,019,944
合計（千円）	5,450,607	8,754,669	10,639,958	36,631,026

セグメント別営業利益

回次	第46期 第1四半期 2019年5月1日 ～ 2019年7月31日	第47期 第1四半期 2020年5月1日 ～ 2020年7月31日	第48期 第1四半期 2021年5月1日 ～ 2021年7月31日	【ご参考】 第47期 2020年5月1日 ～ 2021年4月30日
通販部門（千円）	513,471	629,329	743,480	1,997,879
店販部門（千円）	643,772	401,945	966,116	2,003,063
直販部門（千円）	486,037	1,425,873	1,847,172	5,982,630
海外部門（千円）	256,013	839,690	1,105,245	3,012,776
その他（千円）	△43,552	△58,773	156,892	△31,843
調整額（千円）	△1,104,816	△1,571,694	△1,889,889	△6,847,705
合計（千円）	750,924	1,666,370	2,929,018	6,116,800

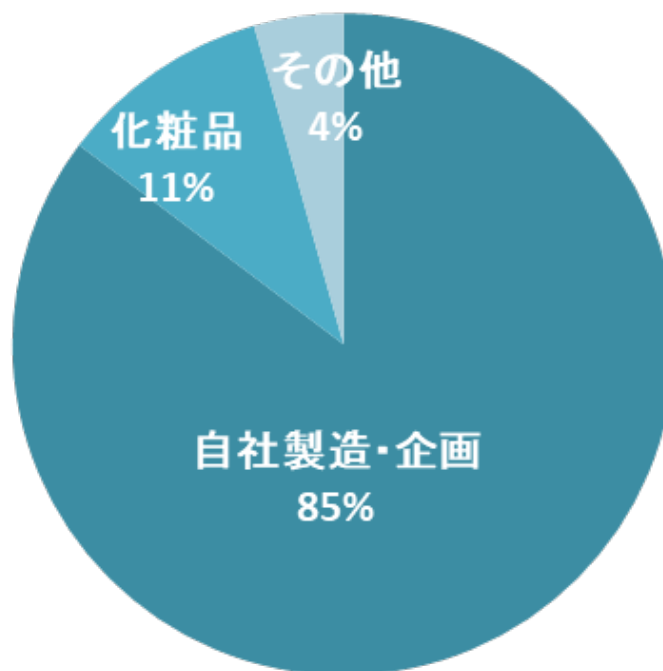
（注）調整額には、主に、各部門に共通する開発部門・管理部門等に係る販売費及び一般管理費が含まれます。

売上構成

当第1四半期における売上構成は、自社開発製品及び自社企画製造委託品が85%、化粧品が11%、その他仕入品などが4%となりました。

自社開発・製造品では、YA-MAN TOKYO JAPANブランドのRF美顔器、光美容器、スチーマーなどが好調だったほか、MYSE（ミーゼ）ブランドも売上を伸ばしました。

化粧品では、オンリーミネラルのほか、フローレスセラムなどの美顔器と併用できる化粧品も好調でした。



財務ハイライト

売上規模の拡大に伴い、棚卸資産、売上債権、仕入債務がそれぞれ増加しました。特に、棚卸資産については、自社製造・企画品の売上増加に伴って製品在庫が増加したほか、昨今の世界的な半導体の供給不足に対応するため、電子部品の先行手配を行ったことから、原材料も増加しました。

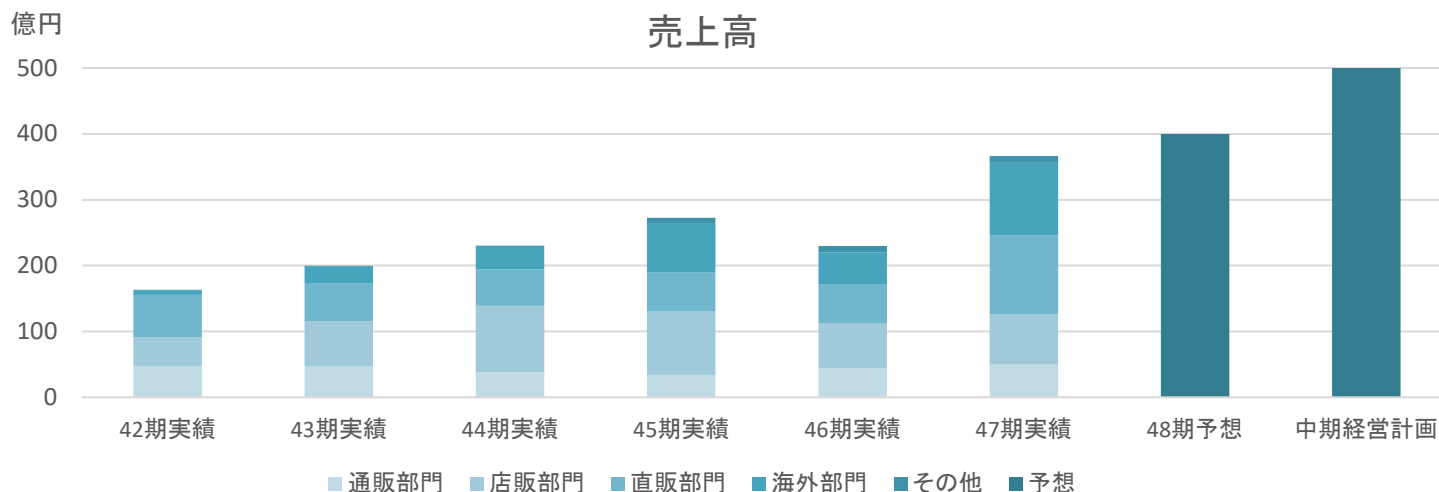
回次	第46期 第1四半期 2019年7月31日	第47期 第1四半期 2020年7月31日	第48期 第1四半期 2021年7月31日	【ご参考】 第47期 2021年4月30日
総資産（千円）	16,762,057	22,955,778	27,151,276	25,855,511
純資産（千円）	13,082,018	14,221,786	18,569,005	16,893,058
自己資本比率（%）	78.0	62.0	68.4	65.3
現預金（千円）	7,860,416	11,249,762	11,368,851	12,957,641
売上債権（千円）	2,726,737	4,118,262	5,204,018	4,000,909
棚卸資産（千円）	2,414,635	2,801,750	5,154,242	3,692,334
仕入債務（千円）	1,224,342	3,175,538	3,248,082	2,600,220
有利子負債（千円）	683,501	2,974,959	2,448,127	2,607,689

第2四半期以降の取り組み

当期（第48期）は、中期経営計画に掲げる「売上高500億円、営業利益率20%以上」達成のステップとして、将来の売上の基礎となる研究開発や、広告宣伝によるブランディングに大きな予算を取り、体質強化に努める計画としております。

第1四半期は、予定していた広告宣伝等の費用が後ろ倒しとなった影響もあり、特に利益面では想定以上の結果の着地となりました。

第2四半期以降は、将来のための投資をしっかりと行ったうえで、予想の達成と更なる業績の拡大を目指してまいる所存です。



業績予想について

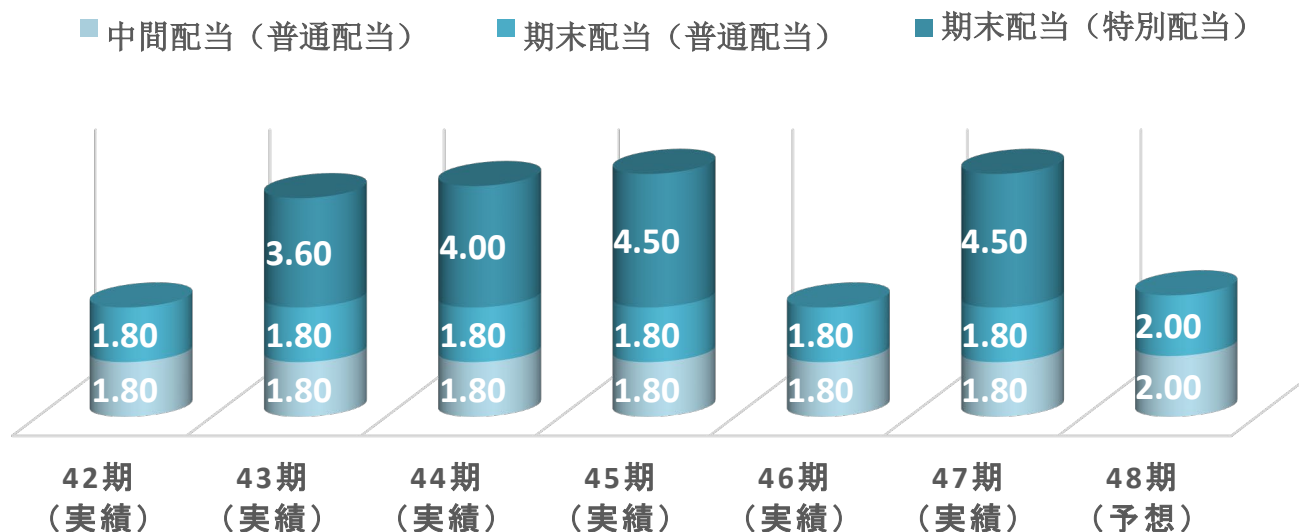
現時点で、2021年6月11日に開示した業績予想に変更はありませんが、今後修正が必要と判断した場合には、速やかに公表する予定です。

	上半期 (2021年5月～10月)		通 期 (2021年5月～2022年4月)	
	金額	対前年同期 増減率 (%)	金額	対前年同期 増減率 (%)
売上高 (千円)	20,299,658	8.4	40,000,878	9.2
営業利益 (千円)	3,024,998	△24.9	6,400,860	4.6
経常利益 (千円)	2,933,598	△25.7	6,218,561	1.9
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	2,031,167	△13.7	4,306,112	15.5
1株当たり当期純利益 (円)	36.92	—	78.26	—

配当について

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けており、配当金につきましては、毎期安定的、継続的な実施を原則とし、期中の業績等を総合的に勘案して決定することとしております。

第48期の予想は中間配当2.00円、期末配当2.00円、年間4.00円としておりますが、最終的な金額は上記方針に従って期末に決定する予定です。



（注）上記金額は、2017年11月1日付の株式分割の影響を加味したものです。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。